

④ブルーギル(魚類)

魚類	国外外来種	
ブルーギル		
目名	スズキ目	
科名	サンフィッシュ科	
種名(亜種名:*)	ブルーギル	
学名	<i>Lepomis macrochirus</i>	
カテゴリー(北海道)	■A1/□A2/□A3/□B/□C/□D/□E/□h/□K	
カテゴリー(環境省)	■特定外来生物/□要注意外来生物	
カテゴリー(日本生態学会ワースト100) / (IUCN世界の侵略的ワースト100)	■日本の侵略的ワースト100 / □世界の侵略的ワースト100	
原産地	五大湖からアメリカ合衆国東部を経てメキシコ北東部	
導入年代	本州では1960年	
初報告	1995年	
全国分布	全国	
道内分布	函館市五稜郭公園濠(*1)	
導入の原因	<p>日本へは1960年に養殖魚として導入されたが、現在では養殖されていない。北海道にも養殖魚として導入されたが、定着しなかった。その後、遊漁者による放流と他の放流魚への混入により分布が拡大した。北海道での分布は公園の池であり、移入の原因は不明(*1,2)。</p>	
生活史型	淡水型	
形態	<p>体は著しく扁平し、体高は高い。口は小さく、鰓蓋後部に名前の由来となる濃紺の斑紋がある。ふつう全長20cm、最大40cmに達する。植生は雑食性で、水生植物から小魚まで捕食する(*2)。</p>	
繁殖形態	<p>産卵期は日本では5～9月。22℃～29℃で産卵する。雄は水底にすりばち状の巣をつくり、産卵受精後は雄が卵から稚魚まで保護する。産卵床を守るオスはなわばりをもつが、ひとつひとつの範囲は狭い。しかし、それらが寄り集まってコロニーを形成する(*2)。</p>	
生息環境	湖沼や河川の流れのゆるやかで水草のあるところを好む(*2)。	
特記事項	特になし	
影響		
被害の実態・おそれ	<p>①生態系にかかる影響 ①小型魚類や甲殻類から水生植物に至る在来生物を捕食し、駆逐する(*2)。 ②農林水産業への影響 ②不明 ③人の健康への影響 ③不明</p>	
被害をもたらしている要因	<p>①生物学的要因 ①本種は、食餌資源ニッチに幅があり、環境適応度が高い。繁殖力も旺盛で、成熟期間は1年と短い(*2)。 ②社会的要因 ②本道への導入経緯は不明だが、他の地域では、1970年代まで食用として公的機関による養殖実験放流が行われていたことに由来する。</p>	
特徴並びに近縁種、類似種	<p>同じサンフィッシュ科のオオクチバスに比べ、体調ははるかに小さく、名前の由来となった濃紺の斑紋によって、容易に判別が可能(*2)。</p>	
対策	<p>2009年現在、北海道水産孵化場・工藤智氏らのグループによって、電気ショッカーボートを用いた駆除研究事業が継続されている(*1)。北海道内水面漁業調整規則の移殖放流禁止対象魚。</p>	
その他の関連情報	特になし	
分布図	■有り/□無し	
写真/イラスト	■有り/□無し	
備考		
参考文献(省略、ホームページで全文献名掲載)		

